シリーズ
かほく市の文化財 No.54

遺跡 編　谷長割遺跡

今回は、かほく市谷にある谷長割遺跡について紹介します。

谷長割遺跡は、谷の集落の背面、およそ「金津小学校」から「遊びの森かほっくる」の範囲の台地にある遺跡です。大きくは、昭和57～58年（1982～1983）に谷公園として開発された際に宇ノ気町が発掘調査を行いました。遺跡は、弥生時代末頃～古墳時代前期、奈良・平安時代（古代）、中世の遺物や遺構を確認し、主に弥生時代末頃～古墳時代前期頃の集落です。主な遺構は、竪穴住居、掘立柱建物、土坑、井戸、溝などが確認されています。また、金津小学校の敷地内には、弥生時代後期と推定される方形台状墓も確認され、平成7年（1995）に整備し、今も保存されています。

また、谷長割遺跡の北に広がる水田地帯を試掘調査すると、水田の層の下に粘土層や砂層が互層しており、さらに下の層は植物が腐食した層が確認され、低地や湿地などの水性堆積であることが分かっています。そのため、当時の人たちは、住みやすさを求め、台地である谷長割遺跡に居住し、台地の下に広がる低地や湿地などを利用し水田などをしていたのではないかと考えられます。

４月となり、桜がみられる季節となりました。「遊びの森かほっくる」など遊びに行きつつ桜を楽しみながら、谷長割遺跡で当時の人たちがどのような生活をしていたのか、思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。

谷長割遺跡の発掘調査風景（令和２年度）
「かほっくる」の整備に伴い実施

谷長割遺跡　方形台状墓